

梅鶯仏教壮年

第61号
2008年
8月17日

9月22日(月)

23日(火) 秋分の日

秋季彼岸会

本山参拝親睦旅行 宿泊『湯の宿松栄』

恒例の梅鶯仏教親睦旅行を、本年は二年ぶりに京都・西本願寺参拝旅行として実施します。

初日は、本願寺での秋季彼岸会に参りをした後、宿泊先『湯の宿松栄』で親睦会を開催致します。

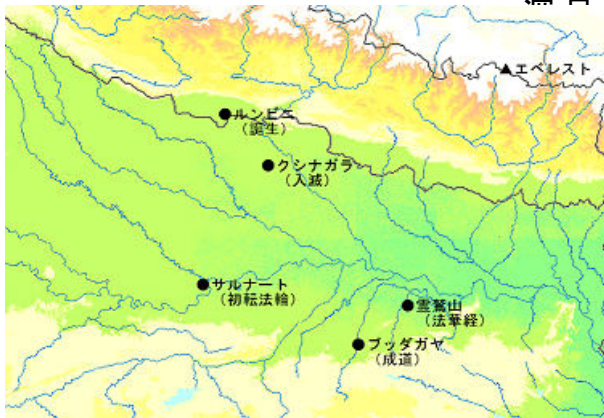
『湯の宿松栄』は、京都市内随一の大浴場(総檜、富士山溶岩風呂)と露天風呂と大型サウナがある旅館で、和室(個室)でゆったりと宴席を楽しむことが出来ます。
みなさん、どうかよろしくご参加いただき、共に楽しい思い出をつくりましょう！

今日の旅路に、いざ就かん。
この旅は、はじめて通る新しい旅ぞい。
ふたたび通れぬ思い出の旅ぞい。

インド仏跡巡拝の旅(序文) ― 釈尊の聖地を訪ねて ―

梅鶯仏教の副会長である森勝昭氏が、平成13年に初めてインドを訪れ、ご子息と共に仏跡を巡拝された紀行文を会報に掲載させて頂きました。

また、平成17年には、仏教伝播のルートであるシルクロードを旅され、その紀行文も会報に掲載させて頂きました。
その森氏が、この度インドを訪れ、いくつかの仏跡を巡拝されてこられました。
その紀行文についても、写真を含め連載させて頂きたいと思ひます。



■ **ルンビニ**
お釈迦様が誕生になられた地で、ルンビニ園として親しまれ、敬愛されている遺跡。

■ **サルナート**
お釈迦様が悟りになられて、法輪の地ともいいます。

■ **ラジギール**
お釈迦様が弟子さん達と生涯の大半を過ごされた地で、お釈迦様が瞑想に励んだ霊鷲山や、お釈迦様にとりかきつきの深い王舎城があったところです。

■ **スラバステイ**
お釈迦様が阿弥陀經を説かれた地として有名な祇園精舎と、コーサラ国のものであった舎衛城跡が残っています。

■ **ブツダガヤ**
お釈迦様が悟りを開かれた成道の地で、お釈迦様には大切な地です。苦行をされた苦行林跡、苦行後に沐浴された尼連河、お悟りの前に登られたという前正覺山などがあります。

■ **クシナガラ**
お釈迦様が入滅された地で、お釈迦様の涅槃像を安置する涅槃堂や、茶毘に付された茶毘塚などがあります。

題材法話

○正信偈を味わう⑨

阿彌陀様のご本願を信じ、念仏する人には、どのようないきなり救われていくのか、これまでに様々に引き続いて、いまは、

獲信見敬大慶喜
即横超截五惡趣
の2句と、

一切善惡凡夫人
聞信如來弘誓願
是言大勝解者
の4句を味わいます。

大慶喜 即横超截五惡趣、
を分りやすく述べて、敬
て、信心を得て、見て、敬
私達の迷いの世界である五
惡趣の世界を、横つ飛びに
超えて断ち切るようになります。

阿彌陀さまの、
一必ず救わずには
おかれぬ、そのま
願いを、受け止めて

素直に受け止めて



喜ぶことが浄土真宗の信心であることは、これまで様々な角度から味わってきた。また、

心を得て、見て、敬つて、行ふものではなく、私自身の力で阿彌陀様の働きによるものであること、他力の信心、

迷いの世界から横つ飛びに、抜け出すことが出来るのだと喜ばれて、横超五惡趣の

益、と呼びますが、最初にこの「横超」という言葉の意味に感動しました。私は大いに感動しました。

○地獄も浄土も身近な世界
言葉ですが、「五惡趣」という言葉は、

まり聞き慣れませうが、「六道」という言葉は、

だと思えます。「地すなわち、」



獄「餓鬼」「畜生」「修羅」「人」「天」の六つの迷いの世界ですが、この中の修羅を畜生に含めて五道として呼ぶのが「五惡趣」であり、六道と全く同じ意味です。

この六道をぐるぐる回り続けて、私達はそこからいつまでたつても抜け出ることができません。これまでも、

今居る人間界はともかく、恐れ、欲に満ちあふれた地獄や、欲に満ちあふれた餓鬼道や、本能のままにふるまう畜生道や修羅の世界など

は見えないと言葉が返るかも知れません。世界は、

世界として示す六道は、けつして別々に存在するのではなく、私達自身がそれぞ

れの世界をめぐりながら存在しているのです。

宗の名僧白隠禅師
あるとき、白隠



の「地獄や極楽はあるのか」と尋ねます。

「そこは白隠は「そんなこと、腰抜けじゃ」と愚弄します。」

「怒り、白隠を刀で切ろうとして、まさに刀が振り下ろされようとした瞬間、

「それ、そこが地獄じゃ」と白隠の氣迫のこもった声がした。

「そこで侍は、はつと氣づき、あわてて刀をおさめ、その場にひざをつき「あり

びと御礼を述べたのです。」

「そこが浄土じゃ」と、そこり笑ったというので、六道は私達自らが作り出した迷いの世界そのもの、



7月例会住職法話より

(以下次号)